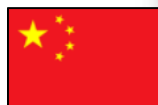


## 国際交流サマーキャンプ 8月3・4日

～世界をジブンゴトにする2日間～

天理大学の留学生 12 名を迎えて、2 日間に渡る国際交流イベントが行われました。高取国際生 36 人、聖徳中学生 3 人が 12 のグループに分かれて活動しました。1 グループに一人の留学生が入って、留学生の母国の文化、歴史からあいさつ、ファッション、食べ物、ジャンケンの仕方まで様々なことを教えていただきました。サイエンスチャレンジでは落としても水風船が割れない工夫をしたり、ビジネスチャレンジではペンの開発をして売り上げを競ったり、グループごとに英語を使って話し合いをしました。午後からはインド出身の講師を招いてヨガを体験したり、アメリカ人講師による世界の民族楽器に触れる音楽講座も開かれました。

この2日間の国際交流を通じて、参加者の中には簡単な英語でも積極的に頑張ってお話そう、もっと国際交流を深めたいという意識が芽生え、留学してみたいという気持ちが強くなった人もいたようです。今までの自分の視野が狭かったことや世界がジブンゴトになったと頼もしい感想をもった人もいました。参加者それぞれに新しい発見があった2日間でした。



## ようこそ高取国際高校へ

### ゼーニンさん

マレーシアからの留学生として 10 月から半年間、2 年 1 組で学校生活を送っています。日本の印象は物価が高いことだそうです。学校生活では、高取国際生のみなさんがとても親しみやすいので、すぐに打ち解けることができました。また、英語の授業はマレーシアでの授業とは全く違うそうです。来日して 2 ヶ月あまりが過ぎましたが、もっとみなさんと友情を深めたいと思っていますとのこと。



### オリビア先生

11 月にイギリスから新しい ALT の先生が来られました。先生の日本の第一印象は、自然がとても多く、人々がとても親切であることだそうです。高取国際生のみなさんのことについては、とても元気ですぐに受け入れてくれたことを喜んでおられます。これから日本のことについてどんな発見があるのかを楽しみにしておられます。



## 異文化体験発表会 11月10日

昨年度末から10月までに行われた異文化体験に関する紹介が各教室で動画再生で行われました。実際に異文化を体験した生徒の皆さんによる発表です。

フランスに8ヶ月間留学していた3-1の東谷柚夏さんはパリ近郊のアンティークの街、ヴァンプの学校に通っていました。昔の病棟や教会を利用した校舎もあったそうです。休日にはパリの観光を楽しんだり、ロックダウンで外出できないときはホストファミリーと料理をしたり、ランタン作りをしたそうです。留学を通じて自分の意見を自分の言葉で伝えること、自信を持って挑戦することの大切さを学んだそうです。

マレーシアの留学生のゼーニンさんはマレーシアは多文化の国で、それぞれの人種、宗教、背景、お互いの信念を尊重する国だと教えてくれました。団結は力という言葉が印象的でした。

ESS部はオーストラリア南部にあるハミルトン中高一貫校と、3月から5月にかけて3回オンライン交流を行っています。日本のランドセルや布団をちびまる子ちゃんのアニメを使って紹介したグループもありました。オーストラリアのクリスマスのスイーツや、固有の動物について教えてもらいました。部員たちは3回の交流を通してだんだん英語で話せる実感が出てきたそうです。

コロナウィルスが蔓延する中、以前のような異文化交流はまだまだ難しい状況ですが、異文化体験をみんなで共有できたよい機会でした。



オーストラリアの料理



## オンライン交流

### 韓国昌原大巖高校 (ESS) 11月12日

6月に続き2回目の交流となりました。今回は日本のコンビニ事情を紹介しました。昌原大巖高校では給食を食堂で食べ、生徒たちは夜遅くまで残って勉強しているそうです。交流後に「カルチャーボックス」を交換し、ESS部からはおすすめのお菓子や折り紙を、韓国からはお菓子やカップ麺、扇子などが送られてきました。



### 台湾萬芳高級中学 (2年) 12月14日

本来ならば修学旅行で直接交流できたはずの萬芳高級中学とオンラインで交流を深めました。都道府県の数や高取国際の生徒数などの2択クイズを出して楽しみました。

交流までにおみやげ交換があり、こちらからは高取国際グッズ(シャーペン、ファイル、缶バッチ)を、台湾からはくまの「ありがとう日本」マスク、学校の写真のポストカード、マグネットが贈られました。来年こそは直接会えることを願ってやみません。



